

聖さんの大祭り神幸祭 要領 平成30年

《1》前夜祭19日(土)

【屋台自主神賑かみにぎわい】◇午前10時～午後9時

各町屋台が、それぞれ町中で踊り等の披露を行います。

【宵宮祭】〔聖神社〕◇午後7時

祭典にあわせ、麒麟獅子舞の本舞が奉納されます。

《2》神幸祭20日(日)

【朝宮祭】〔聖神社〕◇午前7時45分

一番組の榊、麒麟獅子、神輿、供奉員は午前8時45分出発〔巡幸図参照〕

【お旅所祭】◇午後3時30分頃、聖神社境内で齋行され麒麟獅子舞の

本舞が奉納されます。【入宮】◇午後5時頃

二番組の屋台〈今町一丁目、新町、川端二丁目、川端一丁目、行徳四区、行徳三区〉6台 午前9時30分順次巡幸開始〔巡幸図参照〕

随所で踊り等の披露をしながら巡幸、午後3時頃より順次神社へ帰着した後、自主神賑わいとして、それぞれ町中で踊り等の披露を行います。

三番組の屋台〈末広温泉町、元町、鹿野街道筋振興会、今二・棒鼻、瓦町、有楽、南行徳〉7台 午前9時30分順次巡幸開始〔巡幸図参照〕

随所で踊り等の披露、午後1時からは自主神賑わいとして、それぞれ町中で踊り等の披露を行います。

〈参加奉仕者総数〉

榊、麒麟獅子、神輿、供奉員(神社敬神会役員)

屋台14台(川端三丁目屋台は町内据置)

総数1,365人 内子供495人

〔聖神社神幸祭の歴史〕

安永5年(1776)神階正一位を授かる翌年より始まる。鳥取の歴史を知る『鳥府志』には、[寛政初年(1789)氏子講の町々が笠鉾や屋台を繰り出し、子供歌舞伎を披露しながら町中から古海の松原まで曳出し、その道筋屋台の内より琴・三味線・胡弓・笛・太鼓の拍子をそろえ、あるいはドラを打ち鳴らしホラ貝を吹き鳴らし種々の音曲を尽くして練り通るほどに多くの見物人がつめかけ黒山となって街路に立ちふさがり日夜歌舞伎音がつきることなく年々派手で豪華となり、一時藩命により祭礼行事が禁止されたと伝えられている。]

最盛期の昭和16年には屋台等出し物60台が参加、戦後の昭和22年には27台参加とあるが、そのほとんどが昭和27年の鳥取大火により焼失。その後、屋台の復興もあり現在14台が参加している。

平成15年3月神幸行列が、鳥取県無形民俗文化財の指定を受ける。

〔聖神社〕

鎮座地 鳥取県鳥取市行徳二丁目705番地

創建年代は不明

祭神 邇邇藝命(ニギハミコ 天照大神の孫で天孫降臨の神)

日子穗穗手見命(ヒコホテノミコ 邇邇藝命の御子で神話の山幸彦の神、また浦島太郎のモデルと伝わる)

事代主神(コトシラノミ 大国主命の御子で別名 恵比須さん)

本殿 宝永7年(1710)改築〔昭和32年鳥取県保護文化財指定〕

幣・拝殿 文化10年(1813)建築〔平成17年鳥取県保護文化財指定〕

本殿・幣殿・拝殿とこれを囲う透塀など一連の施設は、小規模ながらも因幡地方の江戸時代後期を代表する社殿を形成するものとして価値が高い。(県文化財説明資料より)

平成27年、3年にわたる平成の大修復事業が完工した。